



広報うき

ウキカラ ⑧

うきから あなたから 情報発信 みんなでつながろう

今月の表紙

心つなぐふるさとの祭り
小川阿蘇神社夏祭り造り物大会

7月15日、毎年恒例の「小川阿蘇神社夏祭り造り物大会」が小川町商店街で開かれ、多くの家族連れなどでにぎわいました。今年では地元の7団体から計9基の力作が勢ぞろい。天城橋の完成を祝う作品や米朝首脳会談を話題にした作品などが登場し、通りを歩く人々は造り物の写真を撮るなど夏の夜のひとときを楽しんでいました。

主催した小川町商店街振興会の宮本晴隆会長(59)は「市内外で話題になったものが作品になった。ビアガーデンやダンスパフォーマンスなども新しく加わり、いろんな年代が合同で盛り上げる楽しい祭りになった」と笑顔で話していました。



世間で話題になったものが造り物に

目次

- 3 **特集** 「語り継ぎ、未来へつなぐ」
— 次世代へ戦争を伝える人たち —
- 14 まちのわだい / 広報特派員リポート
- 20 ふるさと復興祭り / 食とモノの祭典
- 22 うきモビ / 天城橋開通記念グッズ
リモコンのdボタンで防災情報を確認
- 24 台風に備えて準備をしましょう
ブロック塀の自己点検をお願いします
- 26 市役所のこともっと知ってもらおう！
- 28 地球温暖化・節水対策に取り組みましょう
「蒙古襲来絵詞」が熊本に帰ってきます
- 29 ビジネスサポートセンターから
- 30 消費者トラブル注意報 / 警察職員募集
- 31 読んでみたい論語
- 32 地域と共に歩む高校・支援学校
- 33 私たちは、地域の相談パートナー・人権擁護委員です
- 34 賢くみんなの年金学
みんなで学ぼうじんけん
- 35 パートナーシップ通信
- 36 市からのお知らせ
- 38 暮らしの情報 / うきばさるこ♪
- 42 図書館
不知火美術館 / 街なか図書館
- 44 さしより野菜・たっぶり野菜プロジェクト
- 45 さしより野菜協力店 (Vege Shop) を認定
- 48 こども健診・相談 / 日曜 祝日当番医・薬局 / 献血 / 子育て応援イベント / 相談
- 50 みんなのひろば
- 51 市長コラム「不撓不屈」 / マチイロ
- 52 宇輝人

特集

語り継ぎ、未来へつなぐ — 次世代へ戦争を伝える人たち —

終戦から73年が経ち、戦後生まれの人が80%を占めるようになりました。戦争を実体験し、その悲惨さを語ることができる人が少なくなっています。地元で起きた空襲のこと、家族を亡くした思い、戦時下での子どもたちの教育など、さまざまな立場から、戦争を知らない世代に語り伝えている人たちを紹介します。

戦時中の暮らしを伝える品物

- ① 「防諜かるた」(昭和16年) スパイを警戒して、ケースの子どもも「見ざる・言わざる・聞かざる」のポーズ
 - ② 「皇軍万歳双六」(昭和15年) 戦地の様子と少女たちの心掛けが遊びながら分かる
 - ③ 防毒マスク 化学兵器(毒ガス)に対する備えのため、家庭でも個人装備に防毒マスクが常備された
 - ④ 戦時色の濃い貯金箱 「防諜三猿貯金箱(左)」と「愛国貯金箱(右)」
 - ⑤ 戦時中に作られた着物の端切れ 戦争ごっこをしている子ども、飛行機、戦車などが描かれている
 - ⑥ 冬用飛行服 表は木綿、裏はウサギの毛皮総張り
 - ⑦ 子ども用の茶碗 兵士や高射砲の絵が描かれている
 - ⑧ 子どもの塗り絵 防空訓練や戦車の絵など戦争の内容
- ①～⑧は全て上村真理子さん(8ページ掲載)所蔵



人のうつき

6月末現在



総人口	59,486人(466人)	+8
三角	7,575人	
不知火	8,830人	
松橋	25,838人	
小川	12,963人	
豊野	4,280人	
男性	28,344人(202人)	-14
女性	31,142人(264人)	+22
世帯数	23,976世帯	+2
6月の出生	34人	死亡 51人
転入	146人	転出 121人

かつこ内は外国人数、十一は前月比

松橋空襲の体験を語る



わけへみつも 松橋町= 松橋空襲当時12歳 昭和7年生まれ 松橋町= 松橋空襲当時12歳

当時の学校生活

昭和16年4月、「尋常高等小
学校」から「国民学校」と学校の
呼び方が変わり、男の子も女の
子も「少国民」と呼ぶようになり
ました。お前たちは小さいけれ
ど立派な国民の一員だという意
識付けだったのでしょうか。

昭和20年4月、空襲警報が頻
繁になると、授業も学校ではな
く自宅の近くの集会所や神社な
どで行う分散教育になりました。
私の住む3区・4区は松橋
神社の境内で、先生一人で教え
ていました。通常の勉強はほと
んどなく、織維をとるための桑
の木の皮や苧麻(ラミー)の採
取、食料となるイナゴ採りやド
ングリ採集が主でした。教育も
歴代天皇の名前や教育勅語を暗
唱させられるなど、今では考え
られないものでした。普通の映
画は禁止されていましたが、日
本軍の活躍を描いた戦争の映画
には学校側が連れて行ってくれ
ました。

熊本空襲

昭和20年になると、高い空をB
29が飛んで行くのは珍しいこと
ではなくなっていました。それで
もこんな田舎には空襲はないだろ
うと思っていました。

しかし、7月1日の深夜、松橋
の上空をB29の編隊が通過。真っ
暗で静かな中、低くて重い轟音が
響き、「ただごとではない」と感じ
ました。宇賀岳の向こうの北の空
が赤々と染まりました。B29によ
る熊本市への焼夷弾爆撃が始まっ
たのです。私は、この日初めて空
襲の怖さを感じ始めました。

松橋・不知火の空襲

①昭和20年7月27日

午前10時過ぎ 晴れ、暑し
私たち小学校高学年は、松橋駅
の西、不知火村塚原へ、ラミー採
集に行っていました。目的地に着
いて間もなく警戒警報のサイレン
が鳴り、先生の指導でただちに帰
途に着きました。帰宅すると同時
にラジオから「西部軍管区情報、
只今敵機十数機八代付近を北上せ

り」と聞こえ、防空壕に避難する
やいなや「ドカーン」と一発耳をつ
んざく大音響と「ズドン」と地響
きがしました。このすさまじい音
の印象が強烈で、続いて起こった
機銃掃射のことは頭に残っていま
せん。戻るのが後5分遅かったら、
空襲の直撃を受けていたでしょ
う。攻撃の標的は、松橋駅と、大
野川に架かる永代橋の鉄橋。駅舎
は命中して半分が破壊されました。
敵機が去ると町中が騒然となり
ました。死者はお寺へ、負傷者は
病院や学校へ運ばれました。現場
を見たいと思いい、松橋駅へ向か
うとしましたが、駅の方から血相
を変えて自転車をこいできた男の
人から「子どもは見ると怒鳴ら
れ、すぐ家へ引き返しました。」
松橋駅では、切符を買うために
並んでいた人たちが機銃掃射の標
的になり、負傷者や死者が多数出
たそうです。駅の惨劇を目撃した
同級生から、「切符を買っていた
親子のうち、母親は機銃掃射の弾
が背中から胸に貫通し、その後息
途絶えた。母に抱きしめられてい
た1〜2歳の子どもは無事だった
が、体全体が母の血で染まってい
た」と聞きました。別の同級生から

熊本でも1945(昭和20)年7
月1日に大空襲があり、この宇城
市でも、終戦の5日前まで3度の
空襲を受け、当時の松橋町や不知
火村は大きな被害を受けました。
分部三友さんは、その松橋空襲
を体験した一人です。小学6年生
だった分部さんから見た松橋空襲
を語っていただきました。

は、「近くのお寺に運ばれた遺体
が、数日後も本堂の石段に転がっ
ていた。機銃掃射で背中を貫通さ
れた男性、血だらけになった頭、
もんぺ姿の若い女性もいた。傷口
や周辺に血がこびりついて異臭を
放っていた」と聞きました。

△被害状況▽
松橋駅 駅舎半壊、死者22人
負傷者60人

不知火村御領 全焼家屋3軒
不知火村高良 全焼家屋50軒、死者
3人、負傷者不明

②昭和20年8月7日 昼頃

この日は、警戒警報は出ていま
したが、空襲警報は発令されてい
ませんでした。突然「ダダダダッ」
と機銃掃射が始まり、西から東へ、
駅から大野橋への町通りに沿って
掃射したようです。小学校の講堂
の屋根の一角が撃ち抜かれまし
た。町を一通り掃射した後、敵機
は引き揚げました。アメリカ兵の
顔が分かるほどの超低空飛行でし
た。

△被害状況▽

松橋町新町 全焼家屋約2軒
不知火村松崎 全焼家屋8軒
死者2人、負傷者2人

③昭和20年8月10日 午後、晴れ

松橋にとって、空前絶後の本格
的な激しい空襲で、油脂弾を含む
焼夷弾が投下され、着火弾を交え
た機銃掃射が行われました。米軍
機は、上空を何回となく旋回して
執拗に掃射を繰り返し、松橋の2
区・3区・4区・5区が攻撃を受
けました。当時の港川の両岸(4
区側と不知火村高良側)に繁茂し
ていた葦に火がついて港川は火の
川となりました。4区では、家の
中に作られていた防空壕にいた子
どもたちが焼夷弾の犠牲となりま
した。壕の外へ這い上がった者も
全身大やけどでその2日後に絶
命。壕の中では、幼児2人が抱き
合ったまま黒焦げの状態で見え
れたそうです。7月1日の熊本大
空襲の後、この家に疎開してきて
いた子どもたちでした。

△被害状況▽

2区・3区 焼失家屋各1軒
4区 焼失家屋約10軒
5区 焼失家屋12軒
不知火村塚原 全焼家屋91軒、負傷
者多数(主に油脂爆弾によるやけど)
※空襲の被害状況については、鶴田倉造
氏「不知火村の空襲」(『燎火』第5号)か
ら引用しています。

空襲体験を記録する

空襲前には、水遊び、釣り、兵
隊ごっこなどで友人と遊んでい
ましたが、空襲後は、警戒警報が
出たら家にすぐ帰れるように、自
宅から半径30〜40メートル以内で
遊ぶように行動範囲も狭くなって
いきました。空襲の夢も21歳頃ま
で見えていました。妹は、戦争が終
わっても飛行機の音がすると怖
がって机の下に隠れていました。
子どもにとって、戦争が残した精
神的な苦痛は大き過ぎました。

「月知梅」という和菓子で有名な
「暗香堂土佐屋」を営んでいた分部
さん。地元の小学生が総合学習で
訪れることも多く、その時に松橋
の港のことなど、和菓子作り以外
の地元のことを聞かれることが何
度かありました。

そのことがきっかけで、分部さ
んは、次世代の人に自分ができる
ことは何かと考え、同級生など有
志が集まってもらい、空襲体験を
まとめることにしたそうです。ま
た、「松橋町史」などにも、この町
が受けた空襲の体験は詳しく記載
されておらず、その補充にもなる



▲分部さんがまとめた戦争体験記と「燎火」第13号

たった4カ月で父を失う。遺児としての思いを伝える



いしやまかつや 石山勝也さん(74)=豊野町出身、小川町在住=昭和19年生まれ 終戦当時1歳

とやままる 富山丸沈没で父を失う

石山勝也さんの父政幸さんは、1909(明治42)年豊野村に生まれました。出征前は酒造会社の番頭だったそうです。

1944(昭和19)年6月29日、鹿児島県徳之島の南東12キロの地点で起こったアメリカ潜水艦「スタージョン」の魚雷攻撃による「富山丸」沈没により、政幸さんは34歳という若さで亡くなります。当時石山さんは生後4カ月でした。

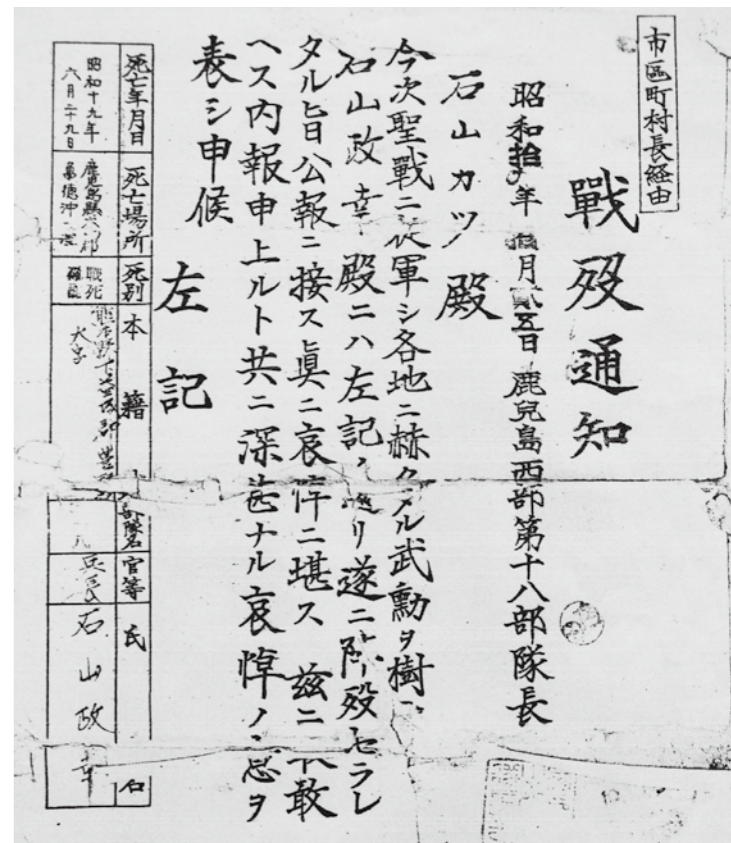
父の顔を知る たった1枚の写真

生まれて4カ月というときに父政幸さんが戦死したため、石山さんに父との思い出はありません。政幸さんが亡くなったときも、海上で亡くなったため、遺骨はなく、死亡を知らせる戦没通知と砂だけが届いたそうです。たった1枚仏間に飾られている政幸さんの写真が石山さんの大切な宝物です。戦争のことを大っぴらに言える時代ではなかったからか、石山さんが物心つくようになってからも、母ミツエさんは夫である政幸さんのことを「ものすごく真面目な人だった」と話す以外は、何も語らなかつたといいます。

3人兄弟の末っ子だった石山さんですが、上の兄2人も病気で幼い頃に亡くなっています。「母は戦争について多くは語り

ませんでした。が、夫と息子2人を失い、男手のない暮らしの中で、言葉では言い表すことのできないほど悲しく、苦しかったのではないだろうか」と石山さんは話しました。

▼政幸さんの母カツさんに届いた「戦没通知」の写し



▲石山さんの父政幸さん

遺族会の活動・取り組み

石山さんは、定年退職後、平成18年から小川町の遺族会の副会長・会長を務め、平成23年には、市遺族連合会の会長になりました。それから、遺族会会員で未整

富山丸は、日本郵船が運航していた大正4年竣工の7000トン級の貨物船。マリアナ沖海戦の敗北、サイパンの戦いなどの敗勢を受け、日本軍は南西諸島の防備強化を急いだ。この影響で沖縄本島への増援が必要となった。昭和19年6月29日午前7時25分、沖縄への増援部隊を輸送中にアメリカ潜水艦「スタージョン」の魚雷攻撃を受けて、鹿児島県徳之島南東12キロの地点で撃沈。甲板にはガソリンを搭載したドラム缶1500本が並べられていたため、魚雷の衝撃でガソリンが船内や海上で発火して炎上。乗員4500人中3704人も死者を出した。

備だった地区ごとの名簿を作成したり、市に9つある慰霊碑の管理について調べました。市の公園外に建っている3つの慰霊碑も行政で清掃活動を行うよう陳情をするなど精力的に活動し、現在は、熊本地震で倒壊した不知火町・豊野町・三角町の慰霊碑修復にも尽力しています。

次世代への平和の継承

遺族会の役割として、「戦争という悲惨な歴史の記憶の風化を防ぎ、次世代への平和の継承」が重要だと考える石山さんは、戦没者追悼式への子どもたちの参加の呼び掛けや中学校での講話などを行っています。

戦没者追悼式

以前の追悼式は、遺族と来賓20人ずつの40人ほどが献花し、参列者も総勢300人ほどの式でした。「遺族だけでなく、市民の皆さん、未来を担う子どもたちが参加する追悼式であってほしい」という思いから、遺族会では追悼式に多数の市民と子どもたちの参加

を呼び掛けました。学校には、一校一校出向いて説明し、平成25年度には市内13校の小学校から2人ずつ、翌年度には、市内5校の中学校からも参加、そして昨年度は、松橋高校と小川工業高校からも参加があり、その結果、遺族約100人・来賓約30人・児童生徒約40人が献花を行いました。今年度の戦没者追悼式は、11月10日(土)に小川町のラポートで行われる予定です。

小川中「ふれあい塾」

小川中学校では、平成27年度から、地域の人とふれあい、地域を知ることや郷土愛を育むことなどを目的に「ふれあい塾」(月1回、朝の15分)の取り組みを行っています。石山さんも、第1回目から生徒に戦争の悲惨さや遺族会の活動などについて話をしていきます。6月21日は、2年2組の生徒40人に、市内の9つの慰霊碑の場所や召集令状の話、遺族会の組織などを話しました。

石山さんは、「自分のように戦争で親を知らない子どもたちを生



▲「ふれあい塾」で中学生に戦争を語る石山さん

み出したくはない。私の父たちの尊い命が何のために戦争の犠牲になったのか。また、世界ではいづれどこかで戦争が起こっており、日本の平和は当たり前のもではない。日本がどんなに平和で素晴らしい国なのか考え、一日一日を大事に生きてほしい。戦争のない平和な時代を皆さんに継承していつてもらいたい」などと子どもたちに訴えました。

一刻の猶予もない

も少しずつ子どもたちに伝わってきているのではないかと石山さんは笑みを浮かべました。

市遺族連合会の会長だけでなく、県遺族連合会常任理事、熊本県護国神社崇敬会理事、厚生労働省の戦没者遺族相談員なども務め、一年の半分以上を遺族会活動に費やしている石山さんですが、今後戦争への意識が風化していかないかと危機感を抱いています。宇城市における戦死者の妻は、平成20年には141人でしたが、この10年で16人にまで減り、平均年齢も100歳となっています。遺児の平均年齢も77歳と高齢化しています。

戦争への意識を風化させず、正しい歴史認識を次世代へ形として残していくために、8月15日の終戦記念日を「平和の日(国民の休日)」に制定する署名活動なども石山さんは行っています。「歴史を顧み、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを念じて、さらに邁進していきたい」と石山さんは熱く語りました。

戦争体験のない私。戦時資料の力で真実を伝えていく



上村真理子さん(64) = 不知火町 = 昭和28年生まれ

赴任先の高校の卒業アルバム

上村真理子さんは、大学を卒業後、関西の高校で社会科の教師をしていました。35年ほど前に赴任した2つ目の学校、兵庫県立夢野台高等学校で、生徒に現代史を身近なものとして教えようと、その学校の歴史を調べたことが、戦前の歴史に興味を持つきっかけとなりました。

どうせ話しても分らないだろう

上村さんは、戦争について調べれば調べるほど次々に疑問が湧いてくると言います。そしてこれまでに多くの戦争体験者の証言を聞いてきました。戦争体験者から話を聞くとき、必ず言われる言葉があります。「どうせ話しても分らないだろう」。確かに戦争を体験した人の思いをそうでない人が理解することは難しいのかもしれませんが。しかし、戦争体験者が年々減少していく中で、戦争体験者だけが戦争を語っていく時代ではなくなっていることも事実です。これからの社会を担う子どもたちに戦争を語り継ぎ、未来へつないでいくためには、まずは戦争体験者から戦争で起こったさまざまな事実を聞き取り、それを戦後生まれの人たちが次世代に語り継いでいくことが必要になってきます。

1925(大正14)年創立の夢野台高校。学校の資料室には、歴代の卒業アルバムがありました。その中の一つを手にしたとき、今までにない衝撃を受けました。防毒マスクをつけた女学生たちが校旗を掲げている姿が一頁に大きく写っていたからです。

同校がある神戸市は外国人が多く、昭和初期の学校では、英語や外国の文化を取り入れた授業も盛んに行われていました。当時の卒業アルバムは、装丁も凝り、文化祭や修学旅行などの学校行事も豊富で、優雅な高校生活が写し出されてきました。それが、1937(昭和12)年の日中戦争頃から戦時色が濃くなり、太平洋戦争頃になると、卒業アルバムは薄くなり、

に語り継いでいってほしい。私には戦争体験はないが、これからも戦争体験者の証言を聞き、戦時資料の力を借りて真実を語り伝えていきたい」と話しています。

街なか図書館での勉強会



▲毎回時間を忘れるほど、熱く語り合っています

1〜2カ月に1回程度、松橋町の街なか図書館(濱まち館)では、上村さんの戦時資料を用いて、戦争についての勉強会を開いています。参加者は、街なか図書館を運営するボランティアの人たちが中心です。先に紹介した松橋空襲を体験した分部さんなど、数人の戦

宣戦布告や真珠湾攻撃の成功を祝う新聞記事が女学生のグループ写真横に掲載されるようになりました。昭和18年3月の卒業アルバムが最後に、昭和19年・20年の卒業アルバムはありませんでした。



▲防毒マスクをつけた女学生(右は拡大写真)

30余年で5000点以上の戦時資料を収集

これをきっかけに、上村さんは、教えていた生徒たちに「歴史をもっと身近に感じてほしい」と戦時中の資料を集め始め、授業の教材として活用。戦争資料の中で

争体験者も参加しています。上村さんは、「戦争を体験した人が、私が調べたものや収集した資料を見て、当時を思い出し、さらに戦争について語ってくれるとうれしい。資料の歴史的裏付けにもなる」と話しています。

街なか図書館での勉強会の日程など詳しくは、街なか図書館事務局 高尾眞知子さん(☎090・4341・9074)まで。

熊本に平和資料館を

戦争と平和を総合的に学べる平和資料館の設立を目指す動きが熊本でも始まっています。

5月13日、資料館の設立を目指す準備会の発足会が熊本市中央区の県民交流館パレアであり、高校生から90代まで約100人が参加。熊本空襲や戦争資料などを未来に伝えることなどを柱にした設立骨子案を確認しました。

資料館の仮称は「ピースくまもと」。上村さんも所属している「新老人の会熊本支部」の「戦争を語り継ぐ会」と「戦争遺産フォーラムくまもと」などのメンバーでつくる準備会が母体となり、戦争体験

も特に、教科書、雑誌、絵本、塗り絵、すごろくなど子どもたちの身の回りにあったものを中心に、古書店や古物市、インターネットなどで30年以上かけて集めた資料は、5000点以上にも及びます。

これらの資料からは、戦争が遊びなどを通して子どもたちの日常生活の全てに深く浸透していたことがよく分かります。この戦時資料を見るために、上村さんの自宅には、全国から多くの人たちが訪れています。

上村さんは、より多くの人に収集した資料の内容を知ってもらうために、資料の解説作業も進めています(現在約500点)。また、「実際に手で触れて時代を感じてほしい」と、収集した資料の貸し出しにもなるべく応えていきたいと思っています。県内ではこれまでに、熊本市南区の城南図書館や山鹿・大津・菊池・植木での「戦争と平和巡回展」(毎年)、松橋高校や八代高校などにも資料の貸し出しを行いました。8月26日まで熊本市立図書館で開催されている企画展「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」にも上村さんの資料が展示されています。

の継承などを目的に、戦争資料などの展示を常設する資料館の開設を目指しています。そこで展示を予定している戦時資料の主となるのが上村さんが収集している5000点以上の資料です。

上村さんは、「この平和資料館が、若い世代の人にとって戦争のことを考える場になれば」と話すとともに「私の収集した資料は全国各地のもので、地元熊本のものがない。資料館ができれば、各家庭にまだ残っている戦時資料も集まって、地元のものが増えてくるのではないかと」と資料館の完成に期待を寄せています。



▲発足会では高校生も熱心に講演を聞いていました

大正時代の 夏休みの友

大正時代の夏休みの友は、「うれしいうれしい夏休み、今日も明日も夏休み、なんでもできる夏休み(右)」と夏休みの楽しさが伝わってくる内容です。また、夏休みの終わり頃には、もういくつ寝ると学校へ行けるか、指を折りながら心待ちに日数を数えている様子が描かれています(左)。



小学1年生の 夏休みの友



「夏休みの友」から見る戦争

今の子どもたちと同じように、昔の子どもたちにも夏休みの宿題として「夏休みの友」がありました。

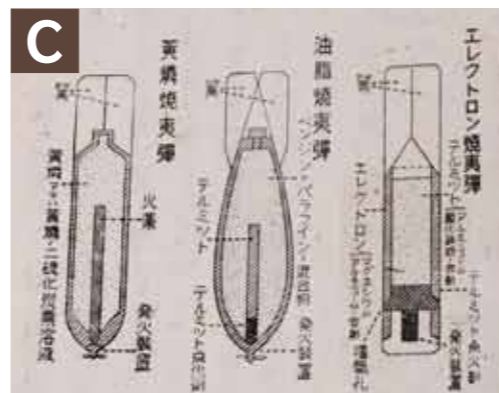
しかし、昭和12年の日中戦争頃からは「夏休みの友」の内容も戦争を色濃く反映したものに変わっていきました。



▲A. 大正時代の小学2年生の「暑中学校」、B. 昭和17年の小学1年生の「ナツヤスミノトモ」、C. 昭和18年の高等科男子用「夏の修練」 (全て上村真理子さん所蔵)

高等科男子用 夏休みの友

昭和18年の高等科男子用の夏休みの友では、表紙もモノクロとなり、軍装した男子生徒がラッパを吹いています。内容も、昭和16年12月8日に公布された「大東亜戦争開戦の日(「宣戦の詔書」)」、「大東亜戦争開戦の日(「宣戦の詔書」)」、「大東亜戦争開戦の日(「宣戦の詔書」)」、「大東亜戦争開戦の日(「宣戦の詔書」)」の地図、体力記録、小遣帳と貯蓄、防空機の作り方、大東亜戦争経過表、焼夷弾の種類など、最初から最後まで戦争一色。「体力記録」のページでは、「大東亜戦争完全遂行には、私たちの体力がまず第一に強くなければならない」と、戦争のために陸上競技や水泳の記録が求められています。また、「小遣帳と貯蓄」のページでは、「戦争に勝つために国民全体で今年270億円の貯金をしなければなりません。そのため、各府県・各市町村・一人一人の貯金割当額を表に書き込み」と子どもたちの貯金まで戦争の費用に充てるものであったことが分かります。



▲焼夷弾の種類

▲大詔奉戴日は、1942(昭和17)年1月から終戦まで実施された国民運動。1941(昭和16)年12月8日の大東亜戦争開戦の日(「宣戦の詔書」が公布された日)にちなんで、毎月8日に設定された。



▲「戦争に使う道具を、知っているだけ書きなさい」という宿題。

▲「軍艦の絵を描きましょう」
同じページには、「海軍の兵隊さんの勇ましいお話を書きましょう」という宿題もある。



▲小学1年の子どもたちも世界で一番良い国は「日本」であり、強い国だと信じていた。

おすすめの本

「記憶のなかの色紙 戦前・戦中・戦後」

著者 ^{なつめのぶひろ} 夏目信弘さん(87) = 松橋町 =
昭和6年生まれ 空襲当時14歳

昭和20年7月27日、中学2年生だった夏目さんは、宇土城址内にあった学校の唐芋畑の草取りをしているときに、松橋駅に艦載機グラマンが急降下、爆弾が一直線に投下されるのを目撃しました。急いで走って家に帰る途中に、近くのお寺の境内に並べられた多数の遺体を目にしたこと、空襲により破壊された松橋駅の惨劇の様子などが色紙に描いた絵とともに詳細な記述でつづられています。

戦前の松橋ののどかな風景や建物も描かれ、また、敗戦直後、長崎県の川棚海運工 廠病院に看護師として勤務していた姉を、いつ来るか分からない列車を乗り継ぎ、父と迎えに行ったこと、その行き帰りで目にした原爆の被爆者の様子なども、この本では詳しく描かれています。

※ 中央図書館、小川分館、豊野分館で借りることができます。
三角分館、街なか図書館(濱まち館)でも読むことができます(貸し出しは不可)。



▲宇土城址から見た松橋の空襲



▲お寺に並べられた遺体



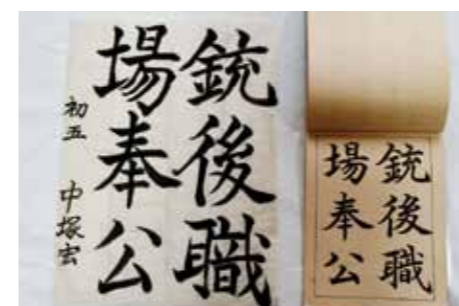
▲空襲後の松橋駅の駅舎

子どもたちを取り巻く戦争

学校での教育でも絵本や遊びの中でも、子どもたちの日常生活には戦争が深く浸透していました。その一例を紹介します(全て上村真理子さん所蔵)。



▲兵隊ごっこ用の玩具。かぶとは紙製、勲章は大日本帝国の勲章をまねたもの



▲小学校で使われていた習字の手本(右)と実際の小学生の習字作品(左)



▲小学3年生の子ども絵。日本と当時の同盟国ドイツの関係をよく表している

上村さんが収集した戦時資料の一部は、「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 戦争遺産フォーラムくまもと」のホームページで閲覧することができます。



▶昭和16年の「大阪毎日新聞写真特報」。陸軍大将や海軍大将の軍服をまねた衣装で七五三参りをすめるのが流行していた



▶昭和13年の絵本「キンダーブック」の1頁。「僕の兄ちゃん、出征の赤いたすきの兵隊さん、僕はうれしい、うらやましい」。当時の子どもたちが兵隊さんに憧れ、戦争や家族の出征を当然のこととして受け止めている姿が描かれている



夏の平和展「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」

熊本市立図書館で、昭和20年の熊本空襲に焦点をあてた企画展が開催されています。上村真理子さんと松山強さん(荒尾市)の集めた資料から約70点を展示。空襲への心構えを描いた絵本や雑誌、灯火管制用の電灯カバーなど空襲に備えて使われた日用品、日本海軍飛行機の貴重な軍装品も並びます。
8月11日(土・祝)13時30分から、上村さんの講演会「空襲を語る絵本たち」が行われます。先着40人、事前申し込みが必要。電話または来館してお申し込みください。

期間 8月26日(日)まで

9時30分～19時

(土・日・祝日は18時まで)

※月曜休館

場所 熊本市立図書館1階

(熊本市中央区大江6丁目1番74号)

主催 熊本市教育委員会

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

協力 ピースくまもと設立準備会

問い合わせ 熊本市立図書館

☎096・363・4522

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の参加者募集

日本遺族会は、「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の参加者を募集しています。父などの戦没した旧戦域を訪れ、慰霊追悼を行うとともに、同地域の住民と友好親善を図ることを目的としています。

訪問地域

トラック・パラオ諸島、フィリピン、ソロモン諸島、ミャンマー・タイ、台湾・バシー海峡、中国など

参加対象

今回実施する地域で戦死した戦没者の遺児

参加費

10万円
集合場所までの交通費、渡航手続き手数料などは含まれません。

申し込み・問い合わせ

熊本市遺族連合会
☎096・352・6925